

管内のうごき

新しい農業士さんが認定されました

農業士は京都府知事が認定し、地域農業の活性化や後継者育成などに御尽力いただきます。

- 指導農業士 柴野 直敏さん (京丹後市網野町)
- 女性農業士 二ノ倉順子さん (伊根町)
- 川村 美紀さん (伊根町)
- 青年農業士 今井 真也さん (京丹後市大宮町)
- 安井 大輔さん (京丹後市網野町)
- 大江 卓さん (与謝野町)

退任される農業士さん

地域や若い担い手の指導者やリーダーとして御活躍いただき大変お世話になりました。今後もそれぞれの立場で地域農業の発展のため御支援をお願いします。

- 指導農業士 城下 佳郎さん (京丹後市網野町)
- 女性農業士 中北 政子さん (宮津市)
- 岩井 知子さん (伊根町)
- 青年農業士 朝日 聡隆さん (京丹後市網野町)
- 西川 忠宏さん (与謝野町)

農薬登録内容の見直しが進んでいます!

～最新の情報に基づいて農薬を使用しましょう～

農薬の残留基準値は「一日摂取許容量（ヒトが一生涯毎日食べても健康に影響が出ないと考えられる1日量）」から定められていましたが、より安全性を高めるために、さらに「急性参照用量（ヒトが24時間または短時間食べても健康に影響が出ないと考えられる1日量）」に基づいて定めることになり、それに伴い農薬登録内容の見直しが進められています。オルトラン、ジェイエース、オンコル、ガゼットなどの農薬について、適用作物の削除や使用回数の制限など、登録が変更されたり今後変更される予定です。最新情報については、農薬メーカーや京都府ホームページ「農薬の変更登録情報」(下記URL)で確認してから使用しましょう。

<http://www.pref.kyoto.jp/shokuanzenbosai/news/documents/tankibakurohyoka.html>

京都「丹後・食の王国」便 ～里芋と鶏肉の味噌煮～



【作り方】

- ①里芋は洗って皮をむき、大きいものは半分に切って、たっぷりの水と酢少々を加え竹串が通るくらいの柔らかさにゆでる。
 - ②鶏肉は一口大に切る。
 - ③鍋にだし汁、みそ、みりん、砂糖を入れ、①②を加えて、最初は強火にかけ、煮立ったら火を弱めて煮汁がなくなるまで煮る。
 - ④さやいんげんはすじをとり、2cmの長さに切り色よく塩ゆでしておく。
 - ⑤器に盛り付け、④のさやいんげんを散らす。
- ※青味はえんどう豆や枝豆、ぎんなん等季節のものを使う。

【材料】

- | | |
|---------------|--------------|
| 里芋……………500g | みそ……………大さじ3 |
| 鶏もも肉 ……200g | みりん……………大さじ3 |
| さやいんげん ……50g | 砂糖……………大さじ3 |
| だし汁……………200cc | |

～ 守りましょう！ 農薬の適正使用であなたの農業 ～



TANGO

丹後普及センターだより

第21号

(平成27年3月発行)

〒627-8570

京都府京丹後市峰山町丹波855

京都府丹後広域振興局農林商工部

丹後農業改良普及センター

電話0772-62-4308

FAX0772-62-5894

丹後普及センター

検索

特集 普及活動3年間のまとめ

丹後農業改良普及センターでは、平成24～26年度までの3年間、京都府の「農林水産京力プラン」に基づき、「人づくり・組織づくり」「地域づくり・絆づくり」「ものづくり・販路づくり」「安心・安全づくり」の実現に向けた普及活動に取り組みました。今号は、その活動内容のまとめを紹介しします。

食の王国たんごを担う人づくり



農業基礎講座



バーチャル商談会

新規就農者等を対象に、科学的根拠に基づいた栽培知識などを学ぶ農業基礎講座を開催し、のべ60名の受講がありました。本講座の修了生は、目標を持って就農されつつあります。平成26年度は保育ルームを設置し、子育て中の方も受講していただきました。

また、農業青年のリーダーや丹後地域農業士会と協力し、研修会や交流会を開催しました。具体的には、「農業機械の安全使用」「農薬の安全使用」といった農業技術の研修会や、丹後の商工業者とも協力した「バーチャル商談会」、京都府漁業士会とも協力した「婚活イベント」などです。

メール会員
募集中!!

おいしいお米づくりのヒントをメールでお知らせします!



丹後米改良協会では、おいしい丹後米づくりのための管理のポイントや病害虫の発生・気象災害対策情報をメールでお知らせしています。(無料。通信料は別途必要)

- ①メールの利用可能な携帯電話やパソコンを用意します。
- ②次のあて先に、空メールを送ってください(右のQRコードでも可)

tangomai@mamail.jp

- ③「ご入会ありがとうございました」の返信メールがきたら、登録成功です。



※登録方法がわからない場合は、丹後農業改良普及センターか、最寄りJAに相談してください。

～知ろう、守ろう、考えよう、みんなの人権～

地域づくり支援

地域づくり



命の里交流会



婚活イベント

丹後地域は、過疎化や高齢化が進み、農地・山林などの維持管理や祭りなどの開催が難しくなりつつある集落が増えており、それらの集落では、「共に育む命の里事業」に取り組んでいます。田舎暮らし体験ツアーや婚活などを開催して移住者が増えているところもあり、加工施設が整備されて地元産こんにゃく等の販売額が増えるなどの成果が出ています。

普及センターは、集落内の小さな「声」を聞き取り「つながる」しくみづくりのお手伝いや特産品づくりの支援、取り組み集落同士が「つながる」ための活動情報の共有化を行いました。今後も、命の里地域が連携して元気で笑顔あふれる活動が継続されることを応援します。

丹後産茶のブランドづくり



丹後産茶の摘採



茶工場見学ツアー

平成16年から始まった丹後産茶は栽培面積47haまで広がり、平成22年に茶工場もできて本格的な茶生産が始まっていますが、ここ数年は春先の低温や病害虫の発生等が原因で、生産量が伸び悩んでいます。そのため26年度から茶業研究所や関係機関と連携して「丹後茶タスクチーム」を新たに結成し、より強力な栽培支援を行っています。

丹後の茶生産者と山城地域の茶流通業者との交流会を開催して、丹後産茶の売り込みに取り組むとともに、「京丹後お茶まつり」や「茶工場見学ツアー」等の開催や直売所での販売などにより、丹後産茶のブランドづくりとPR支援を行っています。今後も普及センターでは、丹後産茶が地域の基幹品目の一つとなるよう、消費者が求める良質茶の安定生産と新たな担い手の育成を支援していきます。

～築いていこう！ 男女共同参画～

国

営開発農地での新たな品目探し



短形ゴボウ互見会



小玉スイカ

平成24年に国営開発農地の基幹品目であった葉たばこが廃作となり、新しい基幹品目づくりをめざして、元・葉たばこ農家等の国営開発農地で、スイートコーン、ジャガイモ、ショウガ、サトイモ等含む11品目の栽培実証を行ってきました。その結果、小ギク、カボチャ、小玉スイカ、短形ゴボウ等が注目され、面積の拡大が期待されています。

普及センターでは、これらの中から選定した品目の栽培暦や経営指針など、生産者が営農品目を選定する際の参考資料を作成して、配布する予定です。

水

稲の有機栽培支援



生育調査



ほ場見学会

環境や生態系に対する関心が高まっており、丹後地域でも水稻有機栽培が行われています。普及センターでは、管内で取り組まれている水稻の有機栽培の実態を把握するため、実証ほを設けて、生育、収量、品質について調査を行いました。その結果、雑草との競合や穂数不足・登熟不足が課題であることがわかりました。これらを解決するために、実践農家の知恵を集めて栽培暦を作成しました。また、手間暇のかかる有機農業を消費者に知ってもらうため、ほ場見学会や生産者との意見交換会を行いました。また、水田の生き物観察を行い、水田が生き物の宝庫であることを理解していただきました。

JA京都宮津無農薬米部会が受賞!

京都府環境にやさしい農業コンクール

JA京都宮津無農薬米部会は、平成26年度京都府環境にやさしい農業コンクールで「全国農業協同組合京都府本部運営委員長賞」を受賞されました。

田植え時に再生紙マルチを敷いて除草対策するなどして、五百万石とコシヒカリを無農薬で栽培し、地元の醸造業者の飯尾醸造に、毎年45トンを出荷しています。無農薬のお米で作られた酢は、丹後地域の農産物直売所などで買うことができます。

丹後のいきもの



冬が終わり春が訪れ、水路の水面近くを群れて泳いでいる小魚は、メダカかもしれません。メダカは尻びれが大きくて広く、卵を水草などに産みつけます。野生のメダカは絶滅危惧Ⅱ類に分類され、絶滅が心配されています。これから始まる農作業の息抜きに、メダカを探してみたいかがでしょうか。

～環境にやさしい農業は土づくりから～